

卒業生に贈ることば

本日、滋賀県立堅田高等学校を巣立つ190名の皆さん、卒業おめでとう。

「努力」、これが、皆さんの3年間を象徴する言葉です。「努力」によって後輩たちを元気づけ、地域の皆様の期待に応えるすばらしい進路実績を残してくれました。努力を尽くしてもときに裏切られることがあるかもしれません。しかし、「努力できる」ことが、すべてに優ると思っています。本校の校章にデザインされた三羽の雁のように、よき先輩、よき友人を得て、この広い世界に飛躍してください。

私たちは、このコロナ禍にあって、日々、忍耐を強いられています。部活動では、練習の制限や練習自体ができなかった時期がありました。皆さんは、決してあきらめることなく、鍛錬を積みました。練習量を創意工夫で補い、質の高い練習で、全国大会や近畿大会出場など多くの栄冠を勝ちとりました。

新しい価値を作り出す力・「創造力」を発揮したのが雁翔祭です。コロナ禍の制限の中で、生徒会を中心に、何ができるか、満足できる雁翔祭にするためにはどうすればよいか、話し合いが続きました。安心安全という大前提を守りながら、体育祭では、クラスが一体となった華やかなパフォーマンスが繰り広げられ、文化祭では、新企画としてVTR作成に取り組みました。先生の力を借りず、自分たちの力でVTRを作成したことに、私たちは感服しました。堅田探訪や北海道への修学旅行など高校生活の思い出は尽きませんが、皆さんの心のアルバムに大切に保存しておいてください。

これから皆さんを迎えるのは、多様な価値観をもった人々が、自己を主張しながらも協調し、協働によって発展していく社会です。私たちは、世代や性別、国境を越えたコミュニケーションを通して、相互理解に努力しなければなりません。ここでもまた「努力できる」ことが試されます。

現在、AI・人工知能への期待が高まっていますが、それ以上に、人間の持つ「創造力」がますます重要になっていきます。私たちには、それぞれの生活に根ざした新しい発想が求められます。皆さんには、豊かな心を持った生活者として歩いてほしいと思っています。

一年生のときには、堅田探訪で堅田の歴史や文化、企業活動について学びました。また、地域の大きな期待を担い創立された本校は、文字通り、堅田の町とともに歩んできました。同窓生となる皆さんも、堅田の町を心の故郷として、それぞれの地域や職場の発展に尽力してください。家族や地域を愛する心、友情や社会の期待に応える力は、社会がどのように変化しても永遠不変の真理です。

いよいよ旅立ちのときがやってきました。

人生は長い旅、出会いと別れを繰り返しながら、最後には、ほんとうの自分自身に巡り会います。

元気に、そして爽やかに旅立ってください。

卒業する皆さんのご健康と今後の活躍を心から願っております。

令和四年三月一日 滋賀県立堅田高等学校 校長